

# 運 動 器

科目責任者 高 畑 雅 彦  
学年・学期 3 学年・3 学期

## I. 前 文

運動器は筋骨格系と神経系からなり、体の各部分の運動をコントロールする臓器です。運動器はヒトが自立した人間らしい生活を営む重要なインフラです。超高齢化社会では運動器を長期間、健常に保つことが社会を成り立たせる基本です。運動器を扱う整形外科の疾患は変性性疾患、外傷（労働災害、交通事故などによる）、スポーツ外傷・障害、関節リウマチ、骨軟部腫瘍、先天性疾患など乳幼児から超高齢者まで、男女の別を問わず広い範囲におよびます。

当科目は整形外科的疾患の病態、診断および治療とリハビリテーションについて講義します。運動器の局所解剖や機能を理解するために、第2学年までに学修した骨筋学や生体力学（物理学）を再び系統講義に組み込んだラセン型教育を実施します。また、知識の定着を促すため各講義の冒頭部分には学生諸君が与えられたテーマに対し10分間のプレゼンテーションを行うアクティブラーニング形式としますので、あらかじめしっかり準備をして対応して下さい。

## II. 担当教員

教授	高 畑 雅 彦（整形外科学）
	稲 見 聡（整形外科学）
	神 野 哲 也（埼玉医療センター・整形外科）
	森 平 泰（日光医療センター・整形外科）
	徳 田 信 子（解剖学）
	美津島 隆（リハビリテーション科学）
准教授	富 沢 一 生（整形外科学）
	渡 邊 敏 文（埼玉医療センター・整形外科）
講 師	竹 内 大 作（整形外科学）
	上 田 明 希（整形外科学）
	山 口 雄 史（整形外科学）
	中 山 健 太 朗（整形外科学）
	中 村 智 之（リハビリテーション科学）
	藤 森 俊 明（基本医学・基盤教育部門）
非常勤講師	片 桐 浩 久（静岡県立静岡がんセンター・整形外科）

## III. 一般学習目標

運動器疾患・外傷を理解すべく運動器の機能解剖・生理・生化学・生体力学の基礎知識を学習する。

運動器疾患・外傷の診断に必要な基本的な診察法、画像所見を学習する。

運動器疾患の病因・病態、病名に関する知識および治療法を学習する。

運動器外傷の救急処置、プライマリーケア、その後の治療法の基本的知識を学習する。

運動器の治療にはリハビリテーションがいかに重要かを学習する。

治療にあたる医師としての基本的理念についても改めて学んでほしい。

## IV. 学修の到達目標

5年生でCCを行う際に、受け持ち患者や他の入院患者を診察し、病名診断をつけ、その疾患の病因・病態を理解し、さらにはどのような治療法が適当であるか自分なりに判断できる知識を習得すること。またその際に、指導教官との会話や診療録によく使われる欧語での医学用語を出来るだけ覚えること。

V. 授業計画及び方法 \* ( )内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	10	26	月	1	整形外科総論	整形外科学 高畑雅彦	5
2	10	26	月	2	骨, 軟骨の成長, 代謝, 修復と骨系統疾患	整形外科学 高畑雅彦	5
3	10	26	月	3	整形外科のための骨筋学	解剖学 徳田信子	5
4	10	26	月	4	バイオメカニクス	基盤教育部門 藤森俊明	5
5	10	26	月	5	高齢者の運動器疾患	整形外科学 富沢一生	5
6	10	26	月	6	治療 理学療法と作業療法	リハビリテーション科学 中村智之	1
7	10	26	月	7	切断のリハビリテーション	リハビリテーション科学 中村智之	1
8	10	27	火	2	関節の脱臼, 靭帯損傷	埼玉・整形外科 渡邊敏文	5
9	10	27	火	3	脊椎脊髄損傷, 骨盤骨折	日光・整形外科 森平泰	5
10	10	27	火	4	変形性関節症の症候, 診断と治療	埼玉・整形外科 神野哲也	5
11	10	27	火	5	整形外科地域医療の実際と運動器疾患の診断法	整形外科学 竹内大作	5
12	10	27	火	6	福祉用具と介護保険	リハビリテーション科学 美津島 隆	1
13	10	27	火	7	歩行の運動学と評価, 転倒の予防	リハビリテーション科学 美津島 隆	1
14	10	28	水	1	骨折の基本 (分類, 症候, 診断, 治療)	整形外科学 山口雄史	5
15	10	28	水	2	スポーツ障害	整形外科学 山口雄史	5
16	10	28	水	3	脊髄損傷のリハビリテーション医療	リハビリテーション科学 美津島 隆	1
17	10	28	水	5	骨軟部腫瘍	静岡がんセンター 片桐浩久	5
18	10	28	水	6	リウマチ性疾患, 小児骨関節疾患	整形外科学 富沢一生	5
19	10	29	木	1	脊柱変形	整形外科学 稲見 聡	5
20	10	29	木	2	脊椎脊髄変性疾患	整形外科学 上田明希	5
21	10	29	木	3	骨, 関節, 脊椎の感染症	整形外科学 上田明希	5
22	10	30	金	1	四肢外傷	整形外科学 中山健太郎	5
23	10	30	金	2	上肢疾患, 末梢神経障害	整形外科学 中山健太郎	5

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

定期試験の60点以上を合格とする。

講義回数の3分の1以上欠席すると定期試験の受験を停止する。

以下のとおり成績評価する。( )内は評価の割合。

定期試験 (70%), 事前課題 (30%)

なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

整形外科学

教科書・参考書：標準整形外科学（医学書院）

病気がみえる vol.11 運動器・整形外科（メディックメディア）

その他：講義担当者によって異なる

リハビリテーション科学

教科書・参考書：神経疾患のリハビリテーション（南山堂）

その他：講義担当者によって異なる

## VIII. 質問への対応方法

原則として講義時に質問を受け付ける。

問い合わせ先：整形外科学講座医局（臨床医学棟 5階）月～金曜日 9：00～17：00

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容の質問等に関して都度解説する。

## XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載があります。

アクティブ・ラーニングを「5.プレゼンテーション」とする講義では、冒頭部分で学生が与えられたテーマに対しパワーポイントを使った10分間（時間厳守）のプレゼンテーションを行うこと。

プレゼンテーションテーマについてはシラバス別冊に記載する。

3学年を6～7名のグループに分け、講義1コマに対し割り当てられた1グループがプレゼンテーションを行う。

資料収集, スライド作成, 発表などグループ内で役割分担し, 分担内容を書面にて提出すること。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載があります。